



## 令和2年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和元年11月12日

上場会社名 カネヨウ株式会社  
 コード番号 3209 URL <http://www.kanevo-net.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西野 幸信  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役職能担当 (氏名) 保坂 和孝  
 四半期報告書提出予定日 令和元年11月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 06-6243-6500

(百万円未満切捨て)

### 1. 令和2年3月期第2四半期の業績(平成31年4月1日～令和元年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年3月期第2四半期	5,683	△4.4	△20	—	△57	—	△58	—
31年3月期第2四半期	5,942	54.9	6	△85.5	6	△75.9	3	△96.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
2年3月期第2四半期	△41.77	—
31年3月期第2四半期	2.55	—

(注)当社は、平成30年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
2年3月期第2四半期	5,543	1,361	24.6	970.62
31年3月期	5,620	1,420	25.3	1,012.38

(参考)自己資本 2年3月期第2四半期 1,361百万円 31年3月期 1,420百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
31年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2年3月期	—	0.00	—	—	—
2年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

期末配当予想につきましては、本日(令和元年11月12日)付で別途公表しております「2020年3月期の期末配当予想の修正(無配)及び株主優待制度廃止に関するお知らせ」をご参照ください。

### 3. 令和2年3月期の業績予想(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	14,000	3.1	170	81.2	170	68.4	85	6.2	60.43

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2年3月期2Q	1,406,620 株	31年3月期	1,406,620 株
② 期末自己株式数	2年3月期2Q	3,802 株	31年3月期	3,712 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2年3月期2Q	1,402,882 株	31年3月期2Q	1,402,980 株

(注) 当社は、平成30年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「期中平均株式数(四半期累計)」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(重要な後発事象) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得の改善が持続し、消費税増税前の駆け込み需要もあり、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど緩やかではありますが回復基調で推移いたしました。しかしながら消費税増税後の反動や、米中貿易摩擦問題の長期化、中東情勢の緊迫化、英国のEU離脱問題、国際金融環境の引締め動きなど、景気を下振れさせる懸念材料も多く存在しており、依然として先行き不透明な状況にあります。

このような環境下、当社は収益基盤の拡大を図り、財務体質をより強固なものとするを経営目標に掲げ、これら目標の達成に向けて取り組んでまいりましたが、寝装用の羽毛原料事業や、カーテン、カーペットを中心としたインテリア用品の販売が健闘したものの、寝装用品及び繊維原料やテキスタイルの輸出取引事業が低調に推移し、売上・利益ともに厳しい結果となりました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は、56億83百万円(前年同期比4.4%減)、営業損失は20百万円(前年同期は6百万円の営業利益)、経常損失は57百万円(前年同期は6百万円の経常利益)、四半期純損失は58百万円(前年同期は3百万円の四半期純利益)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期累計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、当第2四半期累計期間の比較・分析は変更後の区分に基づいております。

#### ①ライフマテリアル部門

羽毛原料の取引については、原料価格の上昇により、売上は前年同水準を維持することが出来ましたが、取扱数量を伸ばすことが出来ませんでした。合繊・羊毛原料取引事業では、敷き布団需要の低迷が長期化しており苦戦しております。

アパレル向けの取引は好調に推移しましたが、産業用資材関連の取引は天候不順の影響を受け、苦戦しました。

その結果、当セグメントの売上高は24億57百万円(前年同期比6.5%減)、営業利益は81百万円(同5.3%増)となりました。

#### ②寝装・インテリア部門

寝装用品に関しては、ホテル向けの枕に加え、客室用の備品を供給する取引がスタートし、順調に推移しました。一方、一般市場向けのムートンやガーゼケット等は、市況の悪化により苦戦しました。

インテリア用品については、通販・店頭向けのカーペット販売が好調に推移したこと及び日欧EPAの効果により物流コストの上昇分を一部吸収することが出来ました。

その結果、当セグメントの売上高は13億12百万円(前年同期比4.7%減)、営業利益は56百万円(同8.8%減)となりました。

#### ③原料・テキスタイル貿易部門

中近東向け生地輸出は、サウダイゼーションや付加価値税の導入等に端を発した経済の混乱や、地域情勢の混乱が長期化する中、低調に推移しました。欧米向けの生地輸出も、一部取引先の在庫調整等によるオーダーの小口化とそれに伴う採算の悪化により厳しい結果となりました。また、欧州域内で行っている生機取引についても、荷動きが鈍く、特に寝装用が苦戦しました。

一方、東南アジアから中近東に向けた低価格帯の生地の三国間取引は、引き続き順調に推移しました。また、繊維原料取引では、前期不調であったナイロン66繊維が復調してきております。

その結果、当セグメントの売上高は19億13百万円(前年同期比1.2%減)、営業利益は44百万円(同5.2%減)となりました。

注) 報告セグメントの営業利益の合計額と当第2四半期損益計算書計上額との差額は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末の56億20百万円に比し、76百万円減少し、55億43百万円となりました。減少の主因は、現金及び預金の減少3億84百万円によるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末の42億円に比し、18百万円減少し、41億81百万円となりました。減少の主因は、支払手形及び買掛金の減少56百万円によるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末の14億20百万円に比し、58百万円減少し、13億61百万円となりました。減少の主因は、四半期純損失の計上58百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和2年3月期の業績につきましては、当期純利益は、兼松株式会社による当社株式に対する公開買付け（本日（令和元年11月12日）公表いたしました「兼松株式会社による当社株式に対する公開買付けに関する賛同の意見表明のお知らせ」をご参照ください。）にかかる専門家費用が見込まれることから、前回（令和元年5月13日）公表値から35百万円減少し85百万となる見通しです。

[2020年3月期 通期（2019年4月1日～2020年3月31日）通期業績予想] (単位：百万円 %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	14,000	170	170	120	85.31
今回修正予想 (B)	14,000	170	170	85	60.43
増減額 (B-A)	0	0	0	△35	—
増減率 (%)	0.0	0.0	0.0	△29.2	—
(ご参考) 前期実績 (平成31年3月期)	13,575	93	100	80	57.07

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和元年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	845,608	461,095
受取手形及び売掛金	2,238,736	2,345,856
商品	1,252,363	1,622,073
その他	322,206	178,957
貸倒引当金	△5,856	△5,441
流動資産合計	4,653,058	4,602,542
固定資産		
有形固定資産	558,705	553,010
無形固定資産	135,015	116,448
投資その他の資産	273,520	271,413
固定資産合計	967,241	940,872
資産合計	5,620,299	5,543,414
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,356,317	2,300,031
短期借入金	1,314,000	1,314,000
未払法人税等	28,170	7,241
賞与引当金	12,400	14,400
その他	227,819	329,070
流動負債合計	3,938,706	3,964,743
固定負債		
長期借入金	56,000	24,000
その他	205,320	193,070
固定負債合計	261,320	217,070
負債合計	4,200,027	4,181,813
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	703,310	703,310
利益剰余金	391,278	332,680
自己株式	△2,973	△3,034
株主資本合計	1,091,615	1,032,956
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,686	7,726
繰延ヘッジ損益	△16	△68
土地再評価差額金	320,986	320,986
評価・換算差額等合計	328,656	328,644
純資産合計	1,420,271	1,361,601
負債純資産合計	5,620,299	5,543,414

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日)
売上高	5,942,863	5,683,701
売上原価	5,492,060	5,269,094
売上総利益	450,803	414,606
販売費及び一般管理費	444,474	434,644
営業利益又は営業損失(△)	6,329	△20,037
営業外収益		
受取利息	748	346
受取配当金	1,897	1,044
為替差益	21,331	-
受取賃貸料	6,900	6,900
受取保険金	5,559	-
その他	269	379
営業外収益合計	36,706	8,670
営業外費用		
支払利息	28,278	22,892
賃貸収入原価	5,289	5,120
為替差損	-	14,127
その他	2,772	3,879
営業外費用合計	36,340	46,020
経常利益又は経常損失(△)	6,695	△57,387
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	6,695	△57,387
法人税、住民税及び事業税	400	400
法人税等調整額	2,718	810
法人税等合計	3,118	1,210
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,576	△58,598

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	6,695	△57,387
減価償却費	6,766	6,339
無形固定資産償却費	823	1,233
のれん償却額	17,353	17,543
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,810	△124
賞与引当金の増減額(△は減少)	△7,300	2,000
受取利息及び受取配当金	△2,646	△1,391
支払利息	28,278	22,892
売上債権の増減額(△は増加)	△644,616	△107,120
破産更生債権等の増減額(△は増加)	189	21
たな卸資産の増減額(△は増加)	△553,337	△369,710
仕入債務の増減額(△は減少)	939,620	△56,285
未収消費税等の増減額(△は増加)	78,185	139,032
その他	△70,643	94,730
小計	△198,820	△308,226
利息及び配当金の受取額	2,676	1,389
利息の支払額	△34,891	△22,296
法人税等の支払額	△21,476	△19,798
営業活動によるキャッシュ・フロー	△252,511	△348,931
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△21,097	△644
その他	△13,211	901
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34,309	256
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	350,000	-
長期借入金の返済による支出	△32,000	△32,000
自己株式の取得による支出	△2	△113
その他	△5,345	△6,453
財務活動によるキャッシュ・フロー	312,651	△38,567
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,408	2,728
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	37,239	△384,513
現金及び現金同等物の期首残高	885,009	845,608
現金及び現金同等物の四半期末残高	922,249	461,095



(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は、本日(令和元年11月12日)開催の取締役会において、兼松株式会社による当社の普通株式に対する公開買付けに関して、賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様が本公開買付けに応募することを推奨する旨の決議をいたしました。

詳細につきましては、本日(令和元年11月12日)公表いたしました「兼松株式会社による当社株式に対する公開買付けに関する賛同の意見表明のお知らせ」をご覧ください。